

日 田 商 工 会 議 所 労 務 委 員 会 議 事 録

1. 日 時 令和6年11月18日（月） 午前10時
2. 場 所 日田商工会館 議員サロン
3. 出席者名 （会 頭）十時 康裕
（委 員 長）伊藤 哲司
（担当副会頭）河津 龍治
（専 務 理 事）樋口 恒成
（委 員）田邊 康宏、宮崎 信二、高倉 貴子
（事 務 局）伊藤 宏、春口 国博、永瀬亜沙美

4. 議 題 ①今年度の委員会活動について
 - ・労務セミナー
 - テーマ案(1)
「働き方改革と賃上げに成功した経営者に学ぶ」
 - テーマ案(2)
「メンタルヘルス対策の方法や精神疾患の知識習得研修」
- ②その他

5. 議題概要

定刻となり伊藤事務局長より開会を告げ、委員長、河津担当副会頭の挨拶の後、委員長が議長となり議案審議に入る。

①今年度の委員会活動について、委員長より話しがある。かねてより谷口副委員長と協議しながら、セミナーのテーマを検討してきたが、決定には至っていないのが現状である。しかし、テーマ案(1)の講師については、谷口副委員長に適当な講師の心当たりがあるとの事であり、詳細が把握できた時点で皆様に諮りたいと考えている。ちなみに、前年度のセミナーは令和6年2月に、日田労働基準監督署の方から「2024年問題と働き方改革」と題してお話を頂いたところである。テーマ案(2)については、平成29年度に「ストレスチェックの活用とメンタルヘルス対策」と題したセミナーを実施した経緯はあるが、経営者として知っておくべき内容であろうと考える。

委員長からの話しの後、委員長よりセミナーのテーマや内容について意見を募る。

（田邊委員）テーマ案(1)に関しては、大変興味がある。自社努力だけで達成できるのか、国や県の支援に頼るしかないのか。どれくらい社会が進化しているのか関心がある。

（高倉委員）市では、会計年度任用職員（非正規雇用職員）の処遇問題がよく話し合われる。賃上げだけではなく、やりがいのある仕事づくりや女性の働き易さについて取り上げて頂きたい。

（宮崎委員）製造業では、正社員に加えてパートで働く社員も多い。自社でもパート社員が22名在籍している。働き方改革が叫ばれ始めて以降、令和4年には5.6%の昇給を実施した。令和5年は業績が振るわず、2.8%の昇給しかできなかったが、ここ数年は毎年新卒の社員の採用ができていて、とは言え、30代から

40代の中堅社員がおらず、社員の年齢的なバランスが取れていないのが最近の悩みである。また、家族の扶養に入っているパート社員は年間103万円を基準に調整しながら働いており、時給単価を上げると勤務時間を減らさざるを得ず、会社としても対応に苦慮しているところである。また、ハラスメント問題にも対応すべく、社員の中からパワハラに対応する委員を選定し、委員を中心としたパワハラ相談窓口を設置するよう計画中である。以前、うつ病で退職した社員もあり、要因は不明のままだが、社員のメンタルヘルスのケアも重要であると認識している。

(田邊委員) もっと働きたいという社員はいるのに、それを法律が許さない、というのは何だか矛盾しているように感じる。

意見交換の後、伊藤委員長が話しを引き取り、本日頂いた意見を参考にしつつ、谷口副委員長とセミナーのテーマについて協議のうえ講師を選定したい、との提案がなされ、異議なく了承される。

(宮崎委員) 大企業と中小企業では、環境や状況が大分乖離していると思われるので、中小企業に絞った内容・講師の選定をお願いしたい。

②その他 ハラスメントの公的な相談窓口に関して宮崎委員より質問が出され、事務局長が調べて回答することとなる。

(十時会頭) ハラスメントを受けた時に、どこに相談すれば良いかを明確に社員に周知しておくことが肝要であろう。

最後に伊藤委員長より、謝辞を述べ、今後の委員会活動に関する協力方をお願いし、会議を終了した。

(11時05分終了)